

・学会/展示会 ・現地訪問 ・今後の出展予定

学会・展示会

2025 JSDT 日本透析医学会学術集会・総会



2025年6月26日～29日、大阪国際会議場にて開催されました。

会期中、フィラピーの展示ブースには透析室スタッフを中心に、多くの臨床医療従事者の皆さまがご来場くださいました。日本の医療従事者の皆さまにとどまらず、中国および韓国において既にフィラピー療法を導入している先生方にもご来場いただき、現場での使用経験について、熱心にお話をいただきました。



◀ 韓国からお越しの先生は、フィラピーと長年のご縁があり、今回もブースを訪問されました。

また、これまでフィラピーに接したことのない方々に足を運んでいただき、治療機器の仕組みや臨床成果に対して強い関心を持っていただきました。臨床現場での経験共有に加え、今後のフィラピーの活用に向けた認識を持っていただけ機会となりました。



フィラピー療法に関する発表は計11題ありました。その中で、社団翔未会グループの追手町クリニック・桜新町クリニック様の研究では、PAD に伴う下肢のしびれや冷感に対して3か月間の照射療法を行い、NRS スコアの有意な低下が確認され、症状改善効果が示されました。

P067-2

フィラピー療法の効果について

影山 和瑚¹、穂崎 大輔¹、齊藤 智司¹、福井 幹人¹、
在原 和夫¹、堀切 つぐみ²

1: (医) 社団翔未会追手町クリニック、2: (医) 社団翔未会桜新町クリニック

【背景】フィラピー療法は特定波長の赤外線を用いた光線療法であり、シャントケアや末梢動脈疾患（PAD）に対する有用性が報告されている。

【目的】フィラピー療法による下肢の痺れまたは冷感の効果について評価する。

【対象・方法】下肢に痺れや冷感を訴える患者 12 人（年齢 74.6 ± 12.0 歳）を対象とし、1 回 30 分、週 3 回透析中にフィラピーを照射した。2024 年 10 月から 12 月の 3 ヶ月間、NRS（numerical rating scale）を用いて評価を行った。

【結果】各患者の下肢の痺れまたは冷感の NRS の平均値はフィラピー照射前 4.25、照射後 3.37 であり、照射前後で痺れまたは冷感が有意に軽減した。

【考察】フィラピーの波長は 3 μ m より長い波長であるため、フィラピーを照射すると、人体組織に一致する電磁振動と共振し、エネルギーが体内に伝導する。それによって、血行が良くなり、軽減したと考えられる。

【結語】フィラピー療法により下肢の痺れ、冷感に対する改善効果が得られた。

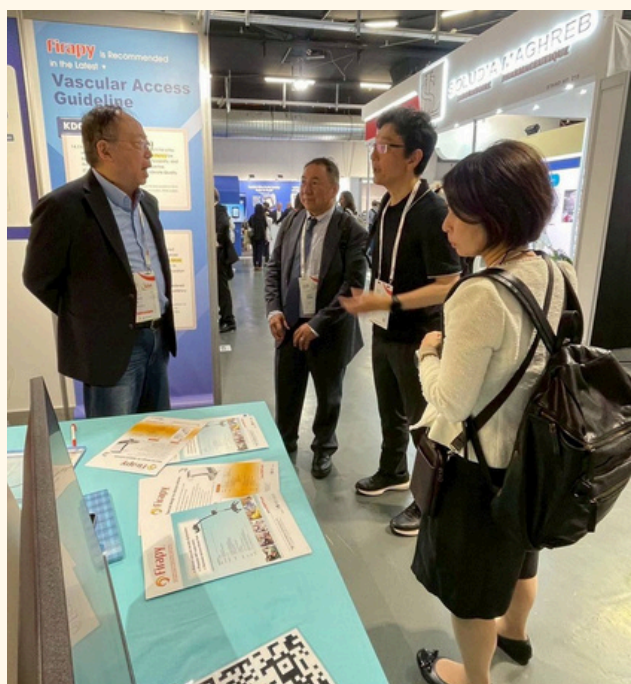


2025 ERA 欧州腎臓学会



EUROPEAN RENAL ASSOCIATION

(ERA:欧州腎臓学会)は、世界の腎臓領域において最も影響力のある国際学会の一つとされ、2025年6月4日～6月7日、オーストリア・ウィーンの Austria Center Vienna にて開催されました。今年は、新型コロナウイルスの影響で一時的に出展を中断していたフィラピー本社が、学会にて展示を再開しました。



▲東京石神井公園腎クリニックの前田院長、さらに矢吹病院の伊東先生らがブース足を運んでくださりました。

会期中には、すでにフィラピー療法を導入されている湘南鎌倉総合病院の日高先生、東京石神井公園腎クリニックの前田院長、さらに矢吹病院の伊東先生らがブースを訪れ、ご挨拶の機会を頂きました。とりわけ、日高先生は腹膜透析患者のケアに強い関心を持たれており、今回の学会でフィラピー療法が国際では腹膜透析領域に広く応用されている一方、日本ではまだ十分に注目されていない現状から、高い関心を示され腹膜透析におけるフィラピー療法に関する研究資料のご依頼をいただいております。

2025 ERA 欧州腎臓学会



▲フランスからご訪問いただいた先生は、ご自身も腎疾患の当事者であり、フィラピーを長年にわたりご使用いただいております。



台湾医療法人新光呉火獅記念病院訪問



▲吉祥寺病院バスキュラーアクセスセンター長の野口智永先生と台湾新光病院透析血管アクセス管理センター主任の呉重寛先生

今年5月、吉祥寺あさひ病院バスキュラーアクセスセンター長の野口智永先生は台湾の新光呉火獅記念病院（以下、新光病院）を訪問され、腎臓科医で透析バスキュラーアクセス管理センター主任の呉重寛先生と、フィラピー療法の導入および臨床応用について意見交換を行いました。

新光病院は透析ベッド100床を有し、そのうちフィラピー19台を導入しており、導入後は独自に標準化ケアプロセスを策定しています。両先生はこのプロセスを中心に、実際の臨床経験や治療成果について活発に議論されておりました。野口先生からは今回の視察を通じて、この標準化プロセスが大いに参考になるとご評価いただいております。



韓国ディストリビューターとの協力に向けた視察



フィラピーは2010年に韓国市場へ参入し、現在では100を超える透析施設で採用されています。今回、新たな代理店への移行に伴い、韓国の医療機器ディストリビューター M.S MEDICAL CO., LTD. がフィラピー台湾本社を訪問し、代理店契約に向けた協議を行いました。併せて台湾の透析クリニックを視察し、今後の韓国において普及に向けた重要な参考情報共有の機会となりました。





第23回Asia Pacific Congress of Nephrology（APCN：アジア太平洋腎臓学会学術集会）は、2025年12月5日から7日にかけて台湾・台北で開催され、台湾腎臓医学会の年次総会との合同開催は今回が初めてとなります。

APCNは、Asian Pacific Society of Nephrology（APSN：アジア太平洋腎臓学会（亞太腎臓病學會））が主催する国際腎臓学術会議であり、毎年アジア・オセアニア地域の各国で開催され、ISN（国際腎臓学会）との連携のもと、高い評価を得ています。

フィラピー本社も本学会への出展を予定しており、各国からの関係者に加え、日本からも多数の腎臓内科医や医療従事者が参加される予定です。

2025年イベント予定

9/13 - 9/14	東京都墨田区	第29回日本透析アクセス医学学術集会・総会
11/2	埼玉県	第24回日本血管血流学会学術集会
11/29 - 11/30	神戸市	第28回日本腎不全看護学会学術集会・総会
12/5 - 12/7	台湾台北市	APCN x TSN 2025
12/7	埼玉県	第53回埼玉透析医科会学術集会・総会

FIRAPYのポイント



FIRAPYのポイント

距離を保て使用すること

FIRAPYを使用する際は、照射器と照射部位の間を20CM以上離してご使用ください。

※創傷のある部位に使用する場合は、30～50CMの距離を保つことが推奨されます。

ご監修：医療法人社団 愛友会 蓮田一心会病院 看護部 藤井 渚